

# 飯舘村スタディツアー参加レポート

国際交流学科3年 NH

大震災以降、被災地の人々は今どんな状況でどんな思いで過ごしているのだろうと気になっていたこともあり、ずっと訪れたいと思っていました。

また、私自身、飯舘村どころか東北に一度も訪れたことがなく、行ってみたいという好奇心が強くありました。

そんな中、先生がスタディツアーを考案していただくという、思わぬ機会に恵まれました。

まず、今回のツアーで、飯舘村に対するイメージが大きく変わりました。

私は、なんとなく放射線が恐ろしいものだというイメージを持っていましたが、今回行ってみて、何を恐れるべきなのか、しっかりと根拠を持って恐れる必要性を感じました。単に放射能・放射線が恐ろしいものだから原発は稼働すべきでないを考えるのではなく、飯舘村、福島、日本の復興を考えると、正しく放射能・放射線の知識を知ることが必要なのだと考えました。前者の考え方で、原発の危険性について主張していくことももちろん必要なことです。しかし、飯舘村、福島、日本の復興やこれからの日本の持続可能性を考えるうえで、正しく放射能・放射線の知識を得て、恐れる対象に地域を入れてはいけません。飯舘村などの地域全体を恐れるということは、根拠の無いことであり、復興を妨げてしまうからです。

そういったことによって、風評被害を生み、消費者が買わなくなってしまう。そういったお互い(ここでは、生産者である菅野さんと他の地域に住む消費者)が分かり合えないことが、一番の深刻な問題なのだとおっしゃっていました。また、お互いの意見を尊重すべきだとおっしゃっていました。消費者自身も、メディアからの影響を受けてしまっているため、仕方のないことなのかもしれません。メディアなどからの情報の混乱により、放射性物質について不安を持っているという点においては、皆同じです。それらをふまえ、寛容な心でいることは大切なのだと考えました。

それは、私たちの専攻でもある国際交流において、またはこれからの国際社会においても重要なことだといえます。なぜなら、悪い面を言っ合ったり、不平不満、不利益をそれぞれが主張していたら、何も良い方向に進むことは無いからです。

菅野さんのおっしゃった言葉は、震災の困難を乗り越えた重みのある、未来を見据えた力強いものばかりでした。

私は、ゼミなどで持続可能性を考えたり、日本の様々な問題を真剣に考える中で、未来に希望を持つことが難しい状況だと考えたり、勝手に無力感を感じたりしていました。そんな中、菅野さんの言葉を聞いて、力が出ました。

また、田尾さんの飯舘村の案内の話聞く中で、日本の未来に希望を持つことができました。菅野さんは震災後、メディアなどの情報の混乱により何事に対しても不信感を持たざるを得ない状況になっていたとおっしゃっていました。避難しなかった私たちでも不安な状態が続いていたため、菅野さん達の状態を考えると想像し難いです。そんな経験をした菅野さんが、今日日本と人々、地球の未来のことを思っていること、そうした活動していることに感動しました。

なぜそんなことができるのだろうと考えていましたが、やはり良い方向に進んでいくために

は、不信感を抱いた人でも、協力は大きな力になるため、その"良い面"を捉えて復興に取り組んでいるのだと考えました。その姿勢にも改めて感動し、私もそうした姿勢を持っていこうと思いました。

田尾さんに、飯舘村の最先端の農業、研究、高齢者ケアが行われていたり、今後太陽光発電が作られる場所を紹介していただきました。そういった新しいことを取り入れながら、問題を改善していく素晴らしいモデルを見ることができました。今後、このような取り組みが、明るい未来を作っていけるのだと感じ、自分もそういった取り組みに参加していきたいと思いました。

「飯舘村のような自然と共生した、村を残さなければ日本の未来はない」と田尾さんはおっしゃっていました。それを聞いて、私は、以前訪れた神奈川県大井町のしのくぼの方々の話との共通する点を感じました。篠窪では、放射能の影響は無くとも、村から人がいなくなって、若い人が少なくなっています。篠窪は、農業だけでは生活が難しくなっており、その他にも仕事を掛け持ちしなければならないといえます。また、農作物を収穫しても安くしか売れないためそのまま放置しておく、などと本当に勿体無いことをせざるを得ないのです。

人が減っていく、自然豊かな生きる力が漲る美しい里山が荒れていくなど、問題として飯舘村と共通している部分がありました。そういった飯舘村の問題は篠窪の問題でもあり、日本全国の問題、世界の問題であります。その中で飯舘村の復興は、様々な面からとても大きな意義のあるものだと思います。

私はゼミで、日本における動物福祉の在り方について研究したいと考えています。

小さい頃から動物が大好きで、犬猫殺処分問題に問題意識を持っていました。

現在は、動物福祉の学生団体の活動などに参加したり、保護施設に行ったり、勉強しています。

将来もこういったことに関わっていきたいと考えています。

Oさんが感想で述べられていたように、飯舘村ではいのちが大切にされていると思いました。菅野さんのお話の中で、食糧安全保障について述べられていたように、私たちが生きるために一番大切な食、それを安全に丁寧に作る農業は本当に重要です。それらを忘れたのか、現在ではあまり重要視されていないように思います。食べ残しなどなるべくせずに、いのちを有難く頂いているという気持ちを忘れずにいるべきです。動物であっても、作物であっても、私達人間と同じ尊い命であり、処分など簡単に捨てたりすることはしてはいけなはずです。そういったことを平気でできてしまう世の中に疑問を持っています。そうした命の尊さについても、今回学ぶことができました。

大震災の影響で、動物達も犠牲になり、大きな被害を受けました。未だ、被災犬・猫も、飼い主の元に戻れず、離れ離れで暮らしているところもあります。仮設住宅、復興住宅はペット不可のものだからです。災害時のペットの問題も大きな問題であり、研究してみたいです。

今回本当にたくさんのお話を学ぶことができました。

本当にありがとうございました。